

令和4年度学校経営計画

令和3年度～令和5年度(2年目)

校番	025	学校名	竹原高等学校	校長氏名	的 場 忍	全日制	本校
----	-----	-----	--------	------	-------	-----	----

1 教育目標

普通科と商業科を併設する芸南地域の伝統校として、礼儀正しく、幅広い知識や技能を活かし、将来の地域社会を担う人材を育成する学校。

2 育てたい(幼児・児童)生徒像

- (1) 誰に対しても挨拶ができ、ルール・マナーに対し高い規範意識を持ち、地域から愛される生徒
- (2) 基礎的な知識や技能を伸ばし、それを活用し課題解決能力を身に付けることで、自らの将来を豊かなものにしようとする生徒

3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他の学校運営に関する目標

- (1) 基礎的な知識や技能を伸ばし、それを活用し課題解決能力を身に付けることで、自らの将来を豊かなものにしようとする生徒を育成する。
- (2) 地域社会から愛され、社会性や規範意識を有し、豊かな表現ができる生徒を育成する。
- (3) 教職員が達成感を持ち、生き生きと安心して働くことのできる環境を整える。

4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期(3年間)経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

中期(3年間)経営目標

- (1) 基礎的な知識や技能を伸ばし、それを活用し課題解決能力を身に付けることで、自らの将来を豊かなものにしようとする生徒を育成する。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標 値
見通しを立てた授業の実施と教科指導力の向上を図る。	① 日常的な授業参観等により、授業づくりに関する研修を促す。	・研究授業、授業参観による自己評価等	80.0%	85%
	② 各自表現力を育成する授業づくりを推進し、積極的な「授業づくり通信」への寄稿により自己研鑽と情報の共有化に努める。	・教職員授業評価アンケート	82.1%	85%
主体的で規律ある学習習慣を確立させ、確かな学力を身に付けさせる。	① 全ての授業で開始時・終了時には、挨拶を重視し静寂な中で礼を正す。	・生徒授業評価アンケート	81.1%	85%
	② 手帳を有効活用し、日々の学習計画や目標・計画等を立案させる。	・生徒授業評価アンケート	61.9%	65%
		・生徒授業広島県高等学校質問紙調査生徒回答肯定率	44.2%	50%

<p>キャリアプランニング能力を身に付けさせ、高みを目指した進路希望を実現させる。</p>	<p>①チューター制度による個別指導により、国公立大学など受験希望者全員の進路を実現する。</p> <p>②進学模擬試験受験を徹底し、結果分析を行う。</p> <p>③就職希望者の面接指導を計画的に行う。</p> <p>④資格取得を奨励する。(各教科・科目に関連する資格取得推進)</p>	<p>・生徒が希望した進学、就職の実績(各合格率)</p> <p>・国公立大学合格者数</p> <p>・資格取得状況 目標値 簿記1級・英検準2級・漢検準2級の合格者を合計10名以上</p>	<p>100%</p> <p>1名</p> <p>13名</p>	<p>100%</p> <p>2名</p> <p>13名</p>
---	--	---	----------------------------------	----------------------------------

中期(3年間)経営目標

(2)地域社会から愛され、社会性や規範意識を有し、豊かな表現ができる生徒を育成する。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標値
<p>地域貢献の喜びを実感させ、自己有用感を高めさせる。</p>	<p>Sクラブや部活動・LHR等の特別活動により、地域の関係諸団体と連携し、積極的にボランティア活動や地域行事に参加させる。</p>	<p>・生徒アンケート肯定率</p>	<p>未実施</p>	<p>85%</p>
<p>組織的・計画的な広報活動により地域や中学生に効果的なPRを行い、生徒確保に努める。</p>	<p>①生徒主体によるオープンスクールの充実を図る。</p> <p>②学校HPや広報誌、マスコミ関係に学校の情報を積極的に公開し、学校に対する理解を深める。</p> <p>③校外での授業や実習を計画し、地域の方の生徒理解を高める取組を行う。</p>	<p>・オープンスクールアンケート調査、保護者アンケート調査の肯定率</p> <p>・一次選抜の志願倍率</p> <p>・実施時のアンケート評価</p>	<p>94%</p> <p>普通科 0.65倍 商業科 0.53倍 (選抜Ⅱ)</p> <p>新規</p>	<p>95%</p> <p>両学科共 1.0倍</p> <p>80%</p>
<p>地域社会と積極的に連携し、地域の教育力を活用した特色ある教育活動を展開する。</p>	<p>企業とのコラボや、地域社会人外部講師招聘事業等により、地域の教育力を活用した魅力ある授業を展開する。</p>	<p>授業発表会アンケート、生徒アンケート調査による肯定率</p>	<p>80%</p>	<p>85%</p>
<p>自己理解・自己管理能力を身に付けさせる。</p>	<p>定例の全校朝礼や全校集会等において、規範意識を高める指導を行う。</p>	<p>・全校朝礼や全校集会(月1回)</p> <p>・問題行動の件数</p> <p>・1日あたりの遅刻者数</p>	<p>10回</p> <p>34件</p> <p>1.8人</p>	<p>10回</p> <p>30件</p> <p>1.5人</p>

中期(3年間)経営目標

(3)教職員が達成感を持ち、生き生きと安心して働くことのできる環境を整える。

短期(本年度)経営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値 (前年度)	目標 値
業務改善を推進する。	①学校行事や諸会議を精選し、スリム化を行う。 ②部から委員会へ移行するなど、学校の規模に応じた組織への改編を図る。 ③分掌ごとに業務の効率化・見える化を行い、効率的な業務の改善に努める。 ④教職員定数減となった分掌業務を、他の分掌で相互に補完できる組織を作る。	教職員アンケートの肯定率	80%	80%
	行事や日課を工夫し、生徒との面談時間を確保する。	生徒・教職員アンケートの肯定率	生徒 89.5% 教職員 40.0%	生徒 90% 教職員 40.0%
	業務量の適切な管理を行い、教職員の健康及び福祉の確保に努める。	勤務時間外在校時間が1か月 45 時間以内、1年間で 360 時間以内の教職員の割合(%)	75.9% 41.4%	100%

■ 別紙：現状分析《環境分析（CROSS SWOT分析）》

学校を取り巻く環境			
有利な材料 【Opportunity（機会）】		不利な材料 【Threat（脅威）】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍されている同窓生が多い。 ・竹原市内中心部に位置し、JR竹原駅から徒歩から近い。 ・グラウンドや体育設備が充実している。 ・地元商工会議所の協力が得られる。 ・兄弟姉妹が多く入学する。 ・民間の学生寮の提供等、地域から強力な支援がある。 ・身近に歴史ある観光資源に恵まれている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・竹原市内の児童生徒数が減少傾向にある。 ・地元で大学等の進学先がない。 ・通学圏に私立の学校が多く、地元から市外の学校へ流出している。 ・進学に対する保護者への意識付けが不十分である。 ・JR呉線以外、他の地域から登校する交通手段がなく不便である。 	
校内の強み（内部S）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少ないので、教員が個々の生徒を良く把握している。 ・素直な生徒が多く、行事の際には積極的に行動する。 ・多くの生徒がボランティア活動への参加を希望している。 ・資格取得に積極的に取り組み成果を挙げている。 ・就職率100%を維持している。 ・インターネットを活用し海外姉妹校との連携を継続している。 ・伝統校故の指定校枠を利用した大学進学が多い。 ・「総合的な探究の時間」(科目「KOGEN」)の研究手法の学習や発表方法の蓄積がある。 	強みを活かした積極的戦略 【Strengths（強み）×Opportunity（機会）】	弱点の克服のための戦略 【Weaknesses（弱み）×Opportunity（機会）】
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設や地域の人材、歴史や文化、観光資源を活かした特色ある教育活動を展開する。 ・部活動を活性化し、中学校や地域に竹原高校の魅力としてアピールする。 ・生徒による地元貢献活動を積極的に行い、活躍等を地域にアピールする。 ・普通科・商業科の併設校として、両方の魅力を効果的に発信する。 ・地元商工会議所と連携した面接指導により、就職に強い学校をアピールする。 ・保護者や地域に対し本校の充実した進路指導の内容を詳しく説明し、理解を深める。 ・ボランティアに係る生徒の実績とKOGENの継続的な学習内容の成果を、推薦入試の強みとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で出前授業を実施する。 ・資格取得でキャリアアップを図る。 ・少人数を活かし、個別・グループ指導によって4年生大学(国公立大学)の実績を向上させる。 ・個を活かした丁寧な進路指導で地元中学生が安心して地元の高校に進学できるようにする。 ・生徒主体のオープンスクールを企画し、生徒の声を中学生に伝える。 ・奨学金制度の拡充など大学進学(国公立大受験)への保護者の関心を高める。 ・「授業づくり」に於いて、振り返りやICTの活用を積極的に行う。 ・学習成果発表会を広く公開し、地域の理解者を増やす。
校内の弱み（W）	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的に厳しい家庭が少なくない。 ・家庭学習時間が少ない。 ・教科学力が十分に定着していない生徒が少なくない。 ・受験先が「安近短」(安:確実に受かる、近:自宅から近い、短:受験勉強期間が短い)志向がある。 ・進学に向けたモチベーションが維持できない。 ・部活動では生徒数が減少し、専門的に指導できる教員も少ないことから、維持が厳しい。 	強みで弱みを克服する戦略 【Strengths（強み）×Threat（脅威）】	悪材料をどう解消するか 【Weaknesses（弱み）×Threat（脅威）】
		<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対する啓発的な進路指導を計画的かつ早期に実施する。 ・部活動指導に専門的な指導のできる外部講師を招聘する。 ・予備校授業力向上セミナーへの参加。 ・大学進学希望の生徒を組織して学習に取り組ませる。(スタディクラブ) ・週末課題等自宅学習など授業外での学習時間を増やす取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の説明を1年生から行い、進学の見通しを立てさせる。 ・進路に関する個々の生徒のデータをまとめ教職員間で共有する。 ・添削指導や面接トレーニング等個々の生徒の個別指導を組織的・継続的に行う。 ・高みを目指した戦略的な進路検討会議を開催する。